

同窓会報

日本福祉大学高浜専門学校

Heart Full

9号

ありがとう！高浜専門学校！！お世話になりました！！



◆職員室

事務長や職員の姿が見えます。奥には教職員室や校長室があります。職員室に入る時には、緊張したり、かしこまったりしたものでした。各種書類の発行や先生方に相談する時など、様々なことでお世話になりました。

◆介護福祉学科教室

この教室で介護福祉学科の生徒が授業を受けていました。介護福祉士になるための心構えや知識など多くのことを学びました。授業外では世間話や流行についてよく会話を重ねたものです。研究発表や文化祭の時など、遅くまで残って作業をしたこともありました。



◆学生ホール

机に座って勉強をしたり、友達と会話をするなどしました。椅子が木だったので長時間座っていると痛かったなあ…。昼食時自販機手前でお弁当を買ったり、売り切れの時には、慌てて近くのコンビニまで走ったものでした。パソコンもよく使いましたね。

◆家政学実習室

普段はあまり使うことが少なかったですが、調理実習や裁縫実習をする時に使いました。調理実習では、うっかり焦がしてしまったり、分量を間違えてしまったりと今では懐かしい思い出ですね。



◆介護実習室

ここでは、ボディメカニクスやシーツの張り方、トイレ、食事介助など実技を通して学びました。部屋の奥には、小春さん（人形）がベッドに横たわっています。その切はお世話になりました。実技試験の時には、独特の雰囲気になり、緊張したものです。



◆ 作業治療室

各種評価手技や授業で、お世話になりました。
赤ダニのダニエル君が、時折、顔を出してはエールを送ってくれました。
介護福祉学科の学生は、手話の授業で使用していました。

◆ 三河高浜駅

高浜専門学校から見る三河高浜駅とその周辺です。三河高浜駅には、電車通学の時に大変お世話になりました。車通学の時には、写真左側の有料駐車場を使いました。



◆ 作業療法学科教室

3年間お世話になった教室です。色々なドラマが起きました。3年生の長期実習の際は、懐かしく「皆のいる教室に戻りたい」と思ったのは私だけでしょうか？

◆ NFUの旗

日本福祉大学の旗があります。
学校の行き帰りは必ずここを通るので、数え切れないほど目に入りました。旗が私たちを暖かく見守っていてくれました。高浜専門学校が無くなっても、ここで学んだ高浜魂は永遠に不滅です！



◆ 基礎医学実習室

ガイコツくんやキンニクんと学びあった(?) 基礎医学実習室です。
筋電図を図ったりスプリントを作ったり…、ウェルカムパーティもよい思い出です。

◆ 図書室

調べものや試験前などお世話になりました。狭くても専門書 10,000 冊、雑誌 100 種類が並んでいます。でも愛読書は「ハリーポッター」だったりして…。



◆ 基礎作業学実習室

木工、革細工、陶芸など、作業療法の核となる“作業”を体験を通して学びましたね。
米山先生の授業では、アートセラピーや絵画を学びました。アートサークル画境でも、お世話になりました。ショーケースの中には様々な作品がありました。

介護福祉学科 最後の授業

2009年1月30日全体報告会

第12回全体報告会、実行委員長を務めさせて頂きました介護福祉学科12期生の久保光日江です。同窓会会員の皆様こんにちは。

高浜専門学校介護福祉学科最後となる全体報告会が、平成21年1月30日高浜いきいき広場ホールにて開催されました。報告会ではご指導いただいた先生方をはじめ、介護実習、地域福祉活動にてお世話になった指導者の方々等、延べ30名の方にご出席頂きました。報告内容は、社会福祉基礎研究での研究報告が5件、訪問介護実習の報告が1件、ケーススタディ報告が1件、介護観の発表1件と学生全員が何らかの報告を行うと共に、報告会運営も実行委員を中心に、殆どの学生が役割をもって取り組みました。報告会は私たちの集大成として学習の成果を発表すると同時に、私たちが培ったチームワークが試される会でもあったと感じています。発表当日は、予定通りに発表を進めることができ、それぞれが役割をしっかりとこなすことができました。その結果、御来賓の方々に良い評価を頂けたことは、私たちの自信につながるものであり、無事に成功したことを実感するものでもありました。

研究発表の内容では、福祉用具、回想法と認知症、介護士の現状と未来、ソフト食の研究、身体障害者の性的実態など、実に様々な種類のテーマに取り組み、多くの学びを得ることができました。私は社会福祉基礎研究で取り組んだ「身体障害者の性的実態」を研究テーマに発表したのですが、文献や資料を読むにつれ、新しい事実を知れば知るほど解決しない理由や、解決したとしてもまた新たな課題が出てくるという現実の厳しさを目の当たりにし、研究すること、発表することの重要性を身を以て感じる事が出来ました。また、報告会を通して得た学びは、理論的思考や研究方法、社会調査の方法の他、自主的に情報を集め、知識、技術の向上を目指すことの大切さ、グループ内での議論を通して得られる様々な気づき等があり、これらの学びが、自身の発言力につながったのだと実感しています。

しかし、卒業後現場に出た後、報告会を通して感じた問題意識や学びを、私自身実際に介護福祉士として十分に関ることができていないことも反省しています。今回の会報での報告を通し、自己の問題意識に再度目を向け、真剣に受け止め、少しずつ解決につながるような行動を示していかなければならないと振り返りました。

最後に、1期生から12期生まで続けられてきた全体報告会が、無事に行われましたことを先輩方に報告すると共に、今まで支えてくださいました先生方、実習指導者様、地域の皆様に実行委員長として深く御礼申し上げます。誠に有難うございました。



最後の全体報告会に寄せて

担当教員：鈴木俊文

介護福祉学科全体報告会は、卒業生であれば誰もが経験した極めて印象深いものでしょう。2年間という短くも長い時間には、それなりの重さと内容の深さが期待され、この報告会は2年間の学びを「成果」として示すと共に、介護福祉士としての一歩につながる「何か」を、学生自身の手で掴み取ることが出来たかを報告する場として極めて重要な機会です。

1期生から始まったこの全体報告会は12回に亘って引き継がれ、これまでに報告された演題数は述べ100を超えます。私自身も本学の第1期生として全体報告会を経験したことがある為、年々変化を遂げる報告会の中身や、年を重ねても変わらずに継続される伝統を肌で感じとりながら、高浜専門学校で行われてきた授業の数々がどれほどの成果を生んできたのかを実感しました。私たち1期生の時代は、報告集は「手書き」、

発表は「身体で表現（私はケーススタディを劇で行いました）」、「研究よりも実体験」という極めてアナログな3本柱だったように思います。しかし、今年度の発表はどうでしょう。「ワードやパワーポイントで作成した資料」、「アニメーションを交えた視覚資料」、体験に加えて「文献を活用した仮説や数値化された分析、根拠に基づく考察」等々、実に科学的な形に姿を変えていることに驚きます。これらは、2年間の学びの総まとめという成果だけでなく、こうして12回に亘って引き継がれてきた全体報告会の集大成であったとも感じるものです。学生たちが歴代の先輩たちの発表を見本に、そして先輩たちの研究成果から得たものを手掛かりに準備を進める姿は、高浜専門学校介護福祉学科のバトンを持って走るリレーの選手のように見えました。私たち教員は、歴代のバトンを持って走る学生たちに「頑張れ」と励ますだけでなく、「もっと早く」と檄をとばすこともあれば、「バトンを落とすな」「そっちじゃない」と引きとめたこともありました。しかし、学生たちは、教員の助けがどれだけあったとしても、ゴールは迎えにきてはくれないことをしっかりと自覚出来ていたのではないのでしょうか。最後まで走り抜いた姿は、驚くほどの成長と共に教員を魅了させてくれるものでした。

1期生から12期生まで途絶えることなく引き継がれてきた全体報告会は、まさに高浜専門学校のアイデンティティそのものだと思います。卒業生の皆さん、そして、手厚くご指導くださいました先生方、実習指導者様、地域の皆様、高浜専門学校を愛して下さったすべての皆様へ、感謝の言葉を述べると共に、これからもずっと、高浜専門学校で行われた授業が皆さんの中で愛され、語り継がれていかれることを願っています。



作業療法学科 最後の授業

2009年12月25日 第15回OTS学会

第15回高浜OTS学会の学科長を務めました作業療法学科12期生の野原真菜美です。

平成21年12月25日、高浜専門学校作業療法学科最後のOTS学会が、いきいきホールを会場に開催されました。

私たち作業療法学科3年生は評価実習や総合実習での経験から、疑問に思ったことや興味を持ったことについて2ヶ月間という限られた時間の中ではありましたが、各自が文献を読み研究を行ってきました。また、研究課題だけではなく学生全体で学会運営を行ってきました。各自が役割を持ち、共に助け合いながら学会が開催されたことを喜ばしく感じています。

発表内容は、担当させて頂いた患者さんとの関わり方や行った治療について実際にどんな効果があったのか、他にどのような治療方法があるかなどをパワーポイントを使用し、一人7分間、精神障害分野・老年期障害分野・身体障害分野・発達障害分野の4つの分野に分かれ、発表を行いました。

学会テーマは「逢花打花～ここから始まる未来への扉～」です。逢花打花とは花に逢ったら花の心になるという意味です。私たちはこれから多くの患者様と関わることとなります。そこでこのテーマのように患者様の気持ちを考え、患者様に寄り添った作業療法を提供していきたいと思えます。

最後に、学会運営にご協力頂いた皆様、研究のご指導をして頂いた先生方、共に支え合った仲間、また、お忙しい中聴講にお越し頂いた皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



最後の OTS 学会に寄せて

校長：田原 美智子

日本福祉大学高浜専門学校の学生学会は、15回を迎えこれを一つの区切りとすることになりました。有終の美を飾ってもらえるものと期待して学会の準備を見守ってきたつもりです。例年にたがわずこれまでの先輩の実績を引き継いでもらったのではないかと感謝しています。

今回学生の選んだ学会テーマは、禅語の「逢花打花」しっかり物事に向き合い後に気持ちを残さないですがすがしい心のあり方を諭した語と思えます。物事や人に対峙するとき真摯な気持ちでありたいというこのテーマを選んだ学生たちの気持ちが伝わってきます。物事や人に対峙するときの自分の心のありようを問うことを忘れないでほしいと思えます。そして自分に向かって問うということが続けてほしいと思えます。対象に解け合うような心境に至るには、長い道のりがあるでしょう。作業療法の仕事に取り組むうえで私は初めの一步として「自分に対して問う」という考えることを躊躇しない気構えや「物事や対象を知りたい」という気持ちをもってほしいと思えます。「自分に対して問う」という姿勢は、自分自身を成長させます。この学会活動では実習や日頃の学習を振り返り、先生方からたくさんの問いを投げかけられたことと思えます。その結果どうでしょう。随分と自分の混沌とした思いがいろいろな篩にかけられてスマートで伝わりやすくなったのではないのでしょうか。そればかりか自分の考えや疑問もはっきりしたものになったでしょう。この道筋を忘れずにこれからの職業生活に生かして下さることを願います。

皆さんの心の中にはいままでの先輩と教員の積み重ねが凝集されています。この活動をスタートとして作業療法の奥深さを追求して行ってください。

最後になりましたが学会の運営・研究活動の指導にあられた先生方、学会に参加し学生の発表に耳を傾けご指導くださる非常勤講師の先生方、卒業生に深く感謝いたします。



第9回定期総会・第8回卒後研修会開かれる

2009年5月24日(日) 母校にて開催 参加人数 延べ90名

第1部 総会：いきいきホール

鈴木俊文会長から①閉校後も日本福祉大学・中央福祉専門学校と協議を重ねながら同窓会活動を続けていく事、②杉浦由美副会長と同窓会活動の現況と課題について論文にまとめた事(高浜専門学校紀要第2巻所収、同窓会のホームページ参照)を報告。今後の同窓会活動について会員のみなさんから意見や提案をお寄せいただきたい、と述べました。

続けて、担当役員から昨年度活動報告・決算と今年度事業計画・予算案などを報告し承認されました。



第2部 卒後研修会：いきいきホール

1)研究奨励論文発表 白井 雅樹氏(作業療法学科 5期生)

演題：精神科急性期治療病棟における『患者心理教育プログラム』に対する満足度調査

2)活動報告 間野布友美氏(介護福祉学科 5期生)

演題：ボランティア～オーストラリアでの出会いと学び～



今しか
できないことを
したい!

3)フォーラム 真のプロフェッショナルの養成をめざしてきたと西村正広先生・岩本喜代子先生・来島修志先生にお話を伺った。



毎月、名古屋で
認知症の事例研
究会をしてるよ。
歓迎します。

4)グループディスカッション 「高浜教育で得たこと、大切にしていること」をテーマに話し合いました。



第3部 懇親会：基礎医学実習室

恩師・旧友と懐かしの場でのクイズやおしゃべりで、日頃たまっていたストレスがすっかりなくなりました。



* 本会の当記事は同窓会ホームページに掲載しております。

第8回卒業後研修会報告

研究奨励部：朝倉起己(作業療法学科1期生)

第8回卒業後研修会は40名を越える参加者にて3部構成(第1部：研究奨励論文発表、第2部：活動報告、第3部：フォーラム)という盛り沢山の内容で実施されました。

第1部は白井雅樹さん(作業療法学科5期生)による「精神科急性期治療病棟における患者心理教育プログラムに対する満足度調査」の研究奨励論文発表で、急性期病棟における作業療法士の取り組みについてユーモアを交えながらの報告でした(詳細は次頁記載)。

2部は間野布友美さん(介護福祉学科6期生)による「オーストラリアでの出会いと学び」という活動報告でした。異国の地での様々なエピソードと多くの写真を交えながらの実践報告で、ボランティア活動を通じた人々や物事に真摯に取り組む姿が目につかぶ実践報告でした。

そして3部は西村正広先生・岩本喜代子先生・来島修志先生ら高浜専門学校ゆかりの先生方を講師として「高浜教育で伝えたこと(伝えなかったこと)」と題しフォーラムを行ないました。教職員が参加した“高浜専門学校開校へ向けた合宿(1995年10月実施)”の(マル秘!?)討論資料をもとに、どのような学生を育てたいか、どのような教育をしたいか、どのような学校にしたいか等の先生方の熱意溢れる思いや本音を当時を振り返りながら語っていただき、卒業生は気の引き締まる思いで聞き入っていました。その話題提供を踏まえ、「高浜教育で得たこと、大切にしていること」について参加者全員にてディスカッションしました。ディスカッションを通して共有した主な意見を下記に紹介します。

- ・高浜は、考えさせる授業、プロセスを大切にしている授業、オーダーメイドの授業が多く、臨床に役立っている
- ・高浜は、足並みを揃え一人一人を大切にしている校風
- ・高浜は、当時は全国的にも珍しい介護福祉学科と作業療法学科の構成で、福祉と医療の現場での相互理解に役立っている
- ・高浜は、遊びに行くところがない不便さもあったが、その分人間関係の幅が縦にも横にも広がった
- ・高浜は、教員が長く勤めており、卒業後も相談しやすい環境であった
- ・高浜の先生方のキャラクターを自身の臨床のモデルにしている
- ・高浜は、同フロアにいるため他学年とも交流できた
- ・高浜では、青春を取り戻すことができた

研修会のまとめとして田原美智子校長より「自身の臨床を10年経験したらこれからは後輩育成を心がけ、リーダーを意識して取り組んでほしい。リーダーの要素は『約束を守る』『相手を信じる』『とにかく元気に!』です」と力強いエールをいただき、研修会は盛況に終わりました。

高浜専門学校にはバラエティに満ちた先生方とバイタリティ溢れる学生が集まり、熱くもあり温かくもある温泉のような拠り所になっているのだと改めて感じることができた研修会でした。今後もこのようなハートフルな会を同窓会で展開していきたいと思っています。

卒後研修会：研究奨励論文発表

「精神科急性期治療病棟における 『患者心理教育プログラム』に対する満足度調査」

白井雅樹(作業療法学科5期生)

研究論文内容概略

南知多病院では精神科急性期治療病棟の患者様へ、作業療法として『患者心理教育プログラム』を実施しております。

当院での『患者心理教育プログラム』は6職種で共に作りあげ、運営しております。このプログラムの質を維持・向上させる為に、効果測定をしてみようと考えました。

具体的には『患者心理教育プログラム』を実施した患者様と、実施していない患者様を比較して、治療満足度に変化があるか…を測定しました。

治療満足度を評価するのに日本語版 Client Satisfaction Questionnaire 8 項目版 (CSQ-8J) を使用し、統計学的解析方法は t 検定 (unpaired t-test) にて分析しました。

今回の発表には含まれておりませんが、セルフケア能力の自己評価が事前・事後で変化するか…についても測定しました。

今回の検証において『患者心理教育プログラム』の実施は、治療満足度を有意に向上させる結果となり、重要性の再認識につながりました。

研究論文をまとめた感想

初めての研究発表であり、お聞き苦しい点も多くあったかと思います。ありがとうございました。今まで、研究、t検定、有意差…等の言葉とは縁なく過ごしてきました。だからこそ、同窓会・卒後研修会として発表の場があり、とても感謝しております。

今回研究をまとめて『研究を実施するにはモチベーションの維持が非常に大切』という事を改めて感じました。今回の自分にとってのモチベーションは、①発表する、と言ってしまったのでやらざるをえない②研究奨励金が出る でした。少々不純かもしれませんが。

でも締切日があり、報酬がある、というのは自らを奮起させるには分かりやすい構造でした。また、その発表の場が卒後研修会という恩師や同窓生が集まる場である、というのも安心感がありました。

今後も卒後研修会へ様々な方が発表され、長く継続される事を願っております。

少し話は変わりますが、作業療法の中でも特に精神科はエビデンスが不足している、と言われる事があるようです。学生時代、精神科へ実習に行った同級生から「精神科の作業療法は、よく分からなかった」とも聞きました。そして、諸外国に比べて日本の精神科医療は10~20年遅れている、等と言われる事もあります。

そんな精神科でプライド持って作業療法を実施する為には、きっと自らが実践している内容の振り返りと効果測定が必要なのだと思います。

来年度以降、1年に1つ小さな事でもテーマを設け定期的に研究を実施できれば、と思っています…と書いてしまった事をモチベーションに変化させて、とりあえず来年はがんばります。



教員メッセージ

日本福祉大学高浜専門学校の閉校に寄せて

日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科
介護学専攻 間瀬 敬子

介護福祉教育においては、より専門性の高い教育が求められており4年制大学も全国で70校を超えています。私も自分自身の研鑽が必要と考え日々努力しているところです。

高浜専門学校の教育は、地域とともにあったと実感しております。高浜市の福祉サービスを利用している利用者の皆様と触れ合い介護福祉士としての感性や福祉に対する理解を深められた地域活動。2年間の学びを報告する全体報告会では、毎年素晴らしい発表で皆に感動を与えてくれました。これからも卒業生のますますの活躍を期待したいと思います。

さみしいけれど…

日本福祉大学高浜専門学校 作業療法学科教員
久野 裕子

田原先生に声をかけていただき、ちょっと腰掛!? (ウソウソ) のつもりで高浜へやってきたのが2000年9月…
2008年4月からは嘱託勤務となりましたが、結局高浜専門学校とは約10年間という長〜い付き合いをさせてもらうことになりました。高浜で教職員の皆さんや学生(卒業生)の皆さんとともに多くのことを経験することができ、自分の人生においても貴重な時間を過ごすことができなな、と思っています。

現在は仕事の中心を臨床活動に移し、疲労回復困難になってきた身体にムチ打って、肉体労働(=子どもと遊ぶ)しています。臨床に戻り、皆さんに教育してきた『理想』と、現場で繰り広げられている『現実』とのギャップに改めて向き合う羽目!?になり、日々悩みながら仕事しています。

先日(といっても原稿を書いているのは11月ですが)、電気が消された夜の学校ホールを歩きながら、遅くまで学生さんと学校に残ったり、エンドレスな学科会議で悶々とした思い出が甦ってきて、ちょっぴりさみしい気持ちになりました。2010年3月をもって高浜専門学校は閉校となりますが、皆さんとの『絆』や『作業療法士』という共通項は一生変わりません。これからも、引き続き長〜い付き合いをよろしくお願いします。

「高浜イズム」を学んだ5年間

日本福祉大学高浜専門学校 作業療法学科専任教員
小嵐 健一

私が高浜専門学校に赴任してから早いもので5年が経ちます。振り返ってみると、あつという間の出来事であったかのように思います。作業療法・介護福祉学科の8期生から12期生までの皆さんとは、直接お会いするご縁があって、校内行事や授業を通して沢山のことを学ばせて頂きました。そして皆さんのおかげで私自身、人としてちょっぴり成長できたかのように感じています。高浜専門学校をホームグラウンドにして、皆さんと一丸になって卒業や国家試験合格に向けて取り組んだ戦い、喜怒哀楽を共感できたことは、これからも良き思い出として大切にしていきます。

教職員の蜷様には、職務に関する私の成長を最後まで温かく見守ってくださりまして、本当にありがとうございました。おかげさまで本校開設当初から諸先生方が御尽力された「高浜イズム」を体感することができました。

高浜専門学校には人材育成のノウハウがしみ込んでいました。私は2010年4月から日本福祉大学健康科学部に赴任しますが、これからは「高浜イズム」を大切に教職に邁進していきます。「高浜専門学校、万歳、万歳、万歳」

ありがとう！ 高浜専門学校

日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科
介護学専攻 水谷 なおみ

高浜専門学校での勤務が決まり、嬉しくて「やった！」と大声を上げたことが、つい最近の様に感じます。それから10年、たくさんの学生さん達と出会い、笑ったり、感動したり、怒ったり、悲しんだり、私は学生の皆さんから多くの事を学びました。今は高浜専門学校で出会った全ての人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。これからの教員生活、初心を忘れず学生の皆さんと真剣に向き合っていきたいと思います。

半田の地から近況報告

日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻 石本 馨

2007年に異動してから2年余り、現在の半田校は従来の教員・他校からの移籍教員・臨床からの教員・そして私を含めた高浜からの移籍教員が在籍しています。高浜イズムを半田に根付かせるべく多文化共生状態の中で教育という作業活動にあたっていますが、今、改めて卒業生・同窓生あつての高浜イズムと実感しています。卒業生・同窓生の皆さん、これからは半田に遊びに来てください。そして後輩を見守っててください。半田を皆さんの故郷とするために。

日本福祉大学高浜専門学校の礎

高浜専門学校校長 田原 美智子

私がこの学校で教員をというお話をを受けて新しい職場の見学に訪れたときこの学校は、まだ鉄筋コンクリートの塊でした。13年前のことです。建物ができ入学式、卒業式が繰り返されて1600余人の介護福祉士・作業療法士・社会福祉士が巣立ってゆきました。私が13年前新しい職場の入り口に立ったとき今日のことをどれだけ推測することができたでしょうか。思い出される記憶より思い出されない記憶の方がはるかに多いようです。そして思い出されない記憶が私の人生の一部をなしているというのが実感です。この学校に至るまでの経験がこの学校での職業生活を支えたようにこれからの私の新生活には、この学校での経験がきっと生きてくるのだらうと思います。そのとき初めて私自身がこの学校で学んだことを知ることができるのではないかと期待しています。この学校最後の1年間は、作業療法学科12期生と過ごしました。介護学科の学生が卒業してもしばらくその余韻が教室、調理室、日常生活訓練室やロビーに残っていました。そのくらい若い人たちのエネルギーや存在感は印象的です。学生のいない校内でしみじみと思います。卒業生の皆さんが高浜専門学校のひとつひとつの礎でした。学校の建物と形は消えますが高浜の地に1600余もの礎を残すことができました。ほんとにありがとうございました。皆様 お元気で。

静かな教室をおもう

作業療法学科教員 田口 修

空いた教室、整然と並んだ机、しまい込まれた道具、出番の無くなった静かな教室を見ると、いつかの喧騒を思い出します。みながここに居たよな、懐古というわけではないけれど、賑やかだったなと。たぶん自分なりの喪の作業であり回想法なのでしょう。さて今3期実習の時節、最後の学生にとって残るは卒研と国試と就活です。私も来季活動の準備をしています。卒業生の皆さん、さいごの応援をよろしくお願いします！

ありがとう 高浜専門学校—介護教育の原点—

日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科

介護学専攻 武田 啓子

平成21年3月、日本福祉大学高浜専門学校介護福祉学科は第12期生の卒業をもって、閉科しました。当時、閉科という言葉のひびきは、とても寂しく、せつなく、複雑な思いがしました。しかし、第12期生の“12”という数字をあらためてみつめると、干支でいえば12支、1年でみると12カ月、半日でみると12時間など、人生や生活の節目になる数字でした。高浜から飛び立った多くの卒業生や教職員とともに育んだ介護教育（高浜魂）は、私にとって一つの節目であり、原点です。その大切な宝物を糧にして、今後も介護教育に取り組んでいこうと思います。

近況

日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科

介護学専攻 片山 徹

平成21年3月に健康科学部へ移籍して、現在、介護学専攻に所属しながら社会福祉士の養成に励んでいます。同じ学園でも全く職場環境は違いバタバタとしています。新しい経験というのはこんなものなのかもしれません。私の最初の教員生活が始まった高浜専門学校がなくなってしまうことはとても残念ですが、介護もOTも大学で大きく羽ばたいていける未来を信じています！

卒業生の皆様へ

作業療法学科専任教員 来島 修志

皆様、来島を育てていただきありがとうございました。14年間を通し、いろんなことを学ばせていただきました。視野も少しは広がったかなと思います。（教えられる内容は相変わらずのことで範囲も狭いですが）さて、半田キャンパスにてこれからもがんばる所存です。なおNPOシルバー総合研究所を通じて、認知症予防や回想法事業にも関わっていきなすと思います。ふるさとのよさを再発見し高齢者の智恵を子どもや若者に伝承するまちづくりを目指していきます。興味のある方は声をかけてください。

高浜校は永久に不滅です！

静岡県立大学短期大学部 鈴木 俊文

同窓会会員の皆様こんにちは。私は2009年4月から、静岡県立大学短期大学部に移籍し教員を続けています。また、日本福祉大学では非常勤講師として、高浜専門学校介護福祉学科で一緒にさせて頂いた先生方と共に、楽しく、そして熱意を持って介護福祉士養成教育に携わらせて頂いています。私自身、第1期生として本学に入学したこともあり、高浜専門学校は「母」であり「共に歩む同志」であったと感じています。卒業後は同窓会会長として、そして介護福祉学科の専任教員として、私と高浜専門学校の絆は年々深まるばかりで、私の人生において無くてはならない存在となりました。この学校を通し出会ったたくさんの人々をはじめ、この学校が与えてくれた夢や希望も私の財産です。この事を振り返るたびに、高浜専門学校という学び舎は、社会の共同体であることを痛感してなりません。閉校後も高浜専門学校の名声をさらに高めていくべく、私たちが誇りを持って取り組んでいく事が大切だと思っています。我が日本福祉大学高浜専門学校は永久に不滅です！

卒業式、閉校式、閉校レセプション、卒業生を送る会

2010年3月12日に高浜校最後の卒業式、高浜校閉校式、閉校レセプションそして卒業生を送る会が開催され、同窓生をはじめ延べ200名が出席しました。



▲同窓生受付を担当した同窓会幹事の野津さん(介護2期生)と香川さん(作業9期生)



▲卒業式開始



▲卒業生26名全員に田原校長から卒業証書が手渡されました。



▲閉校式で渡辺理事長より挨拶



▲閉校式会場のいきいきホールは大勢の出席者で満席となりました。



▲レセプションは基礎医学実習室がメイン会場



▲学生ホールもレセプション会場に



◀同窓会から鈴木会長が挨拶



▲鈴木会長の挨拶に聴き入る皆さん



▲田原校長を囲む作業療法学科同窓生



◀ 間瀬先生と一緒に介護福祉学科同窓生

▼高浜校の14年をスライドで振り返る来島先生の熱演に大きな拍手が起きました。



▲鈴木前校長とツーショット



▲私たちが仲間です。





▲思い出の講義室でハイ・チーズ！



▲お世話になった先生方へ同窓会有志から感謝状と記念の花束贈呈



▲水谷先生にはホール前で感謝状をお渡ししました。



▲鈴木会長も表彰状と花束をもらって感激！



▲同窓会有志とサークル「画境」による卒業生を送る会で、卒業生のワンショット。



▲卒業生には同窓会より花束を贈呈しました。

2009 年度同窓会援助金 購入資料

◆DVD で学ぶ精神科医療の基本◆

「DVD で学ぶ精神科医療の基本」シリーズは、各領域の第一人者が日頃蓄えた研修医指導のノウハウに基づき、研修医が学ぶべきポイントを的確に要領よく押さえた精神科医療全体をカバーするシリーズです。

1 巻～3 巻は診療について、4 巻～6 巻は治療について紹介します。

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 第 1 巻 | 異常な精神現象の理解 (精神病理学/精神症状学) (48分35秒) |
| 第 2 巻 | 精神症状把握のための面接 (36分55秒) |
| 第 3 巻 | 精神疾患の診断と検査 (41分35秒) |
| 第 4 巻 | 薬物療法 (33分59秒) |
| 第 5 巻 | 精神療法 (50分11秒) |
| 第 6 巻 | 心理・社会療法と地域ケア (43分53秒) |

同窓会からのお知らせ

2010 年 (平成 22 年) 4 月から高浜専門学校同窓会事務局業務は日本福祉大学中央福祉専門学校事務室が担当します。また、卒業証明書、成績証明書など証明書の発行事務につきましても同校事務室で行います。お問い合わせは下記まで。

日本福祉大学中央福祉専門学校
〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目27-11
電話：052-339-0200 FAX：052-339-0201
E-mail：chuo@ml.n-fukushi.ac.jp
URL：http://www.n-fukushi.ac.jp/chuo/

高浜専門学校同窓会のホームページやメールアドレスはこれまで通りです。住所変更などの連絡にご利用ください。

URL：http://www.netnfu.ne.jp/heart/
E-mail：heart@netnfu.ne.jp

編集後記

日本福祉大学高浜専門学校の建物はなくなりますが、日本福祉大学中央福祉専門学校様などのご協力を得て中身は存続します。これを機に私達の同窓会はさらに発展していきます。社会の私達への期待により応えるには、私達の人間としての成長が不可欠です。同窓会は今後も真のプロフェッショナル養成の場として活動を続けます。ご協力とご支援をお願いいたします。(成瀬)



〈発行者〉 日本福祉大学高浜専門学校同窓会
〈印刷〉 株式会社 一誠社 平成 22 年 3 月 31 日 発行